

記念物
【天然記念物】

みやとりおん

宮鳥御嶽のリュウキュウチシャノキ

Ehretia dichotoma Blume

指定年月日／1959（昭和34）年12月16日
所在地／石垣228-1



リュウキュウチシャノキはオーストラリアから蘭嶼まで分布するムラサキ科の常緑高木で、国内では八重山諸島を北限として石垣島、西表島、波照間島などの数ヶ所でわずかに自生している珍しい樹木である。

春と秋の年2回、小さな可憐な花を小枝の先端に群がって咲かせ、花期が終わると、大豆の大きさほどの丸い赤褐色の実を付ける。リュウキュウチシャノキは普通、隆起珊瑚礁の海岸近くに生えるもので、街中に自然林の形で生育しているのも珍しい。これは、かつてこの地域が海岸に近かったことを想像させる。また、蘭嶼に自生するが、近隣の台湾へは分布せず、そこを飛び越えて八重山で自生している不思議な分布の理由についてもまだよく分かっていない。

宮鳥御嶽には、かつて樹高7～11mにもなるリュウキュウチシャノキも自生していたが、根腐れにより枯死した。現在は、イビ内に1株のみ生育している。沖縄の植物分布を考えるうえからも貴重な樹木のため、大切に保護しなければならない。

県指定

記念物
【天然記念物】

なかすじむら

仲筋村ネバル御嶽の亜熱帯海岸林

指定年月日／1972（昭和47）年5月12日 所在地／川平1195



一般に、高い木の群生したところを森林というが、広い意味では低木や草本、あるいはそこを棲みかとする動物も含めて呼ばれることもある。そのため、人工的に植物の種類を限定すると、そこに住む動物も限られてくる。自然林を保護することは、植物ばかりでなく動物の生活環境を保つことにもなる。

仲筋村跡を含む石垣島北部地域の海岸は、かつてうっそうとした海岸林におおわれていたが、戦後の移住民による開拓などのためほとんどが伐採され、ネバル御嶽を中心とする本地域だけが、古く

から信仰の対象として崇められていたため、辛うじて伐採をまぬがれたといわれる。

本地域にはハスノハギリを主としてクサミズキ、フクギなどの高木やリュウキュウガキ、コミノクロツグなどの低木、そして草本類をはじめ昆虫、小動物などが豊かに生息していて、亜熱帯海岸林の特徴がよく保存されている。小規模ながらも石垣島を代表する自然林として、かつての八重山の森林環境を知ることができる貴重な地域である。